



【表1 日当たりによる野菜の生育分類】

日当たりの良いところを好む	トマト・ピーマン・なす・ししとう・とうがらし・スイカ・メロン・キュウリ・カボチャ・ごぼう・ながいも・ニンジン・だいこん・ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー・さやえんどう・さやいんげん・えだまめ・スイートコーン・タマネギ・イチゴ
日当たりが悪くても耐える	ネギ・ほうれん草・にら・しゅんぎく・レタス・サラダ菜・こまつな・アスパラガス・パセリ・セルリー・ジャガイモ
日当たりの弱いところを好む	みつば・せり・ふき・きのこと類

【表2 主要野菜の科の分類(同じ仲間の野菜)】

科	主な野菜
ナス科	トマト・ピーマン・とうがらし・ししとう・ジャガイモ・ほおずき・なす
ウリ科	キュウリ・スイカ・メロン・かぼちゃ
キク科	レタス・ごぼう・しゅんぎく・ふき・チコリー・サラダ菜・サンチュ
セリ科	ニンジン・パセリ・セルリー・みつば
アブラナ科	キャベツ・ハクサイ・だいこん・ブロッコリー・カリフラワー・かぶ
ユリ科	タマネギ・ネギ・にら・アスパラガス・にんにく・リーキ
マメ科	さやえんどう・さやいんげん・えだまめ・そらまめ
その他	バラ科=イチゴ、イネ科=スイートコーン、アカサ科=ほうれん草、アオイ科=オクラ、ショウガ科=みょうが

【表3 主要野菜のは種・定植・収穫時期(道央地帯・露地栽培)】

野菜名	は種	定植	収穫期	野菜名	は種	定植	収穫期
トマト類	3月20日~4月5日	5月20日~6月5日	7月25日~10月5日	かぶ	4月25日~8月25日	-	6月20日~10月20日
キュウリ	4月20日~5月10日	5月25日~6月15日	7月15日~10月10日	ジャガイモ	-	5月10日~20日	8月20日~9月20日
なす類	3月10日~20日	5月25日~6月10日	7月15日~10月10日	ハクサイ移 植	5月1日~7月31日	6月1日~8月20日	7月20日~10月20日
ピーマン・とうがらし類	3月20日~31日	6月1日~6月15日	7月15日~9月30日	直まき	-	7月20日~31日	10月25日~11月5日
カボチャ移植	4月15日~25日	5月15日~5月25日	8月15日~9月5日	キャベツ	4月10日~6月25日	5月10日~7月25日	6月25日~10月10日
えだまめ	5月15日~6月5日	-	8月15日~10月10日	レタス	4月15日~7月10日	5月10日~8月5日	7月10日~10月10日
さやいんげん	6月1日~7月15日	-	8月5日~9月30日	ほうれん草	5月1日~8月31日	-	6月10日~10月20日
スイートコーン	5月10日~6月20日	-	8月10日~10月15日	アスパラガス	4月5日~4月15日	5月20日~5月31日	5月10日~7月10日
スイカ	4月10日~25日	5月15日~31日	8月5日~31日	タマネギ	3月1日~3月15日	5月1日~5月15日	8月25日~9月20日
メロン	4月10日~25日	5月15日~31日	8月5日~31日	長ネギ	3月1日~4月25日	5月25日~7月25日	8月10日~10月31日
だいこん	4月25日~8月15日	-	7月1日~10月31日	葉ネギ	4月25日~7月31日	-	7月5日~10月5日
ニンジン	4月25日~6月20日	-	7月25日~10月31日	にら	4月25日~5月15日	7月20日~8月10日	5月10日~6月20日
				にんにく	-	9月20日~9月31日	7月20日~7月31日

今回のテーマは…野菜づくりの作付計画です!

家庭菜園も無事に終了し、今年の野菜の仕上がりはいかがだったでしょうか? 「たくさん採れた」「もぎたて野菜のおいしさは格別だった」「あまりうまくいかなかった」など様々な感想をお持ちかと思います。ここで家庭菜園を行う上でのポイントを再確認し、今年の反省を踏まえて来年度に向けてこの冬場に作付計画を立てておきましょう。

①日当たりや草丈も考えて作付けしましょう。

作物には日当たりの良い場所を好むものや、日当たりが悪くても耐えるものなどがあります。また、草丈が高くなるものや低いものもありますので、考慮して日陰にならないよう植付けします。【参考 表1】

②水はけが良く風通しが良い場所を選びましょう。

排水が悪いと、生育が悪くなったり野菜の根が腐ったりします。また、山や建物に囲まれていたり、深いぼ地などで風通しが悪い場所などでは、病害虫が発生しやすくなります。

③できるだけ輪作しましょう。

毎年同じ場所に同じ作物を作ると、その野菜を侵す病原菌や土壌害虫(センチュウなど)が残り、年々発生が多くなります。作物は異なっても、同じ仲間(科)の野菜では共通する病害が多いので、これらの野菜の連作も避けた方が良いでしょう。【参考 表2】

④野菜の生育ステージを確認しましょう。

野菜を栽培する上で、は種する時期、定植する時期がその野菜の生育適温にあっているかどうか確認する必要があります。また、は種(定植)してからどれくらいで収穫出来るかも調べておく必要があります。【参考 表3】



⑤作付計画、何の野菜をどれくらい作るか。

どれくらいの収穫が得られるか知っておく必要があります。作りすぎて収穫できない失敗事例も多く、収穫期間が短いもの、長期間収穫できるもの、貯蔵ができるものなどにより作る面積を決めましょう。またイチゴ・アスパラガス・にらなど一度植えたら数年収穫が出来るものは畑の端の方に植えましょう。

家庭菜園にとって最も重要なことは、できるだけ野菜にとって生育が良くなる環境をつくることです。そのために連作を避けたり、採光性を考慮したりなどの工夫が必要となりますので、毎年作付図のようなものを作成し保存しておくとその後の作付時の参考になると思います。【参考 表4】

【表4 作付計画事例】

年目	北側	南側
【1年目】	にら アスパラガス	ほうれんそう ねぎ
【2年目】	にら アスパラガス	ほうれんそう スイートコーン
【3年目】	にら アスパラガス	ほうれんそう スイートコーン

数年間は収穫できる → 弱い光でも生育 → 草丈が高く、光が必要 → 草丈が中程度、光が必要 → 草丈が低く、光が必要 → 数年間収穫可能、光必要

食のはなし 野菜の病害虫対策 ~豆知識編~

野菜を栽培する上で、様々な病害虫が発生し頭を悩ませることがありますよね。そして、それによって品質や収量が低下したりすると、菜園作りへの意欲が湧かなくなってしまうこともあるでしょう。しかし、病害虫は理由もなく発生するものではなく、ちゃんとした原因があります。

野菜を健全に育てるためには、病害虫の発生を防ぎ駆除しなくてはなりません。このことを「防除」といいます。「防除といえば農薬散布を行うこと」とらわれがちですが、実はそれだけでは病害虫による被害を抑えることはできません。効果の高い防除を行うためには農薬散布以外の手段についても理解を深め、うまく組み合わせることが大切です。以下の注意すべき点①~⑤を参考に家庭菜園を楽しみましょう!

①畑を清潔に保ち、作物周辺の雑草を繁茂させない

作物残さや作物周辺の雑草は病害虫の発生源や住家・越冬場所となるため適切に処理することが大切です。

②肥料をやりすぎない

窒素肥料が多すぎると、軟弱徒長の生育傾向となり抵抗力が低下するため病気にかかりやすくなります。

③抵抗性の品種を選ぶ

品種によっては特定の病気にかかりにくく、虫がつきにくいものがあります。

④病葉摘除や害虫捕殺の励行

病害虫を確認した場合、病葉や害虫は作物の生育に支障がない範囲で摘除や捕殺することで、まん延予防として効果があります。

⑤病害虫を寄せ付けない工夫

防虫ネットによる虫の侵入防止や、高畝栽培などによる降雨時の泥はね防止によって被害を軽減することができます。



人間が病院にかかるのと同じように、いつから・どのような症状がでて・どれくらい続いたのか、またどのような環境下で発生したのかなど、野菜の健康状態を的確に把握することが大切です。そのためにも、普段から作物をよく観察しておくことが重要であり、それが病害虫対策の第一歩になるのです!